

ひい



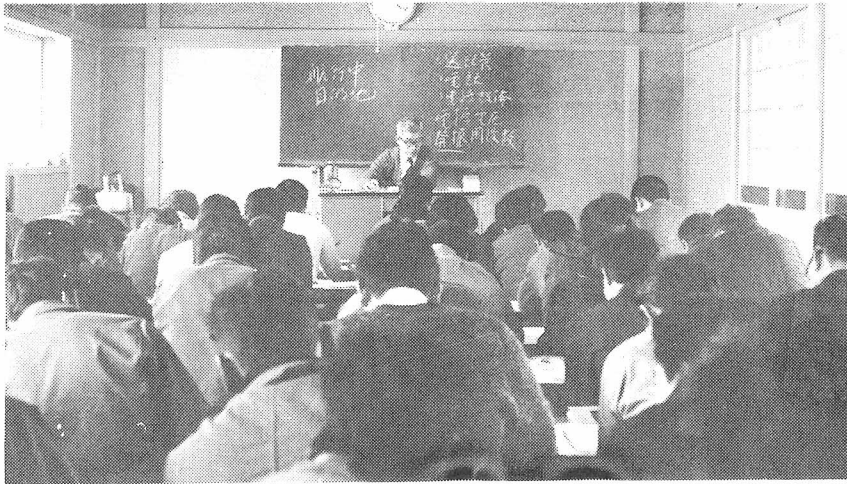
3

五四人の無線技師誕生

村で初の講習会

二月七日から十五日まで、婦人会館で特殊無線技師養成課程講習会が開かれ参加者全員が技師の免許をとりました。これは年々船が大形化し、行動範囲が広くなり遭難しても、船同志の交信、陸上との交信が出来ない、陸上から魚獲

状況聞きたいが連絡出来ない等これらの不便を解消するため開かれたもので、この講習会には多くの申込者があったが、人員に制限があり、国家試験に合格してもすぐ漁船に取付出来る人だけ選考したものです。今回受講出来なかつた人達のためことしの夏に第二回目の講習会が開かれる予定だそうです。



講習会には、部落からマイクロバスで三十三人、両佐井から二十一人が参加し、午前八時半から午後四時まで電波法、国内法規、無線電話取扱法等に真剣に耳をかたむけていました。ある受講生は「講習を受けているのはむづかしいが、魚獲高が伸びるんだばたいしたことね。」と顔をほころばせて話してくれました。

二月十七日の国家試験では、全員が合格し待望の免許を手に入れました。

漁業協同組合では、これから漁船に無線機を取り付ける予定だそうです。

老人クラブが

学校に雑巾を贈る

贈る

寿会では、自分達の作った雑巾を保育所、各小中学校に贈って来ました。これは寿会の会合の場で、なにか佐井村に真心のこもったものを贈ろうではないか、贈るにしても何を贈るのか話し合わせ、雑巾を贈ることに決定されたものです。雑巾を贈るとしてもどのくらいあつまるか心配されましたが孫達が使ってくれるんだと思つて余暇を利用して一生懸命つくつたものです。雑巾を受け取つた保育所、各小中学校では、今以上にきれいにしていきたいと喜んでいました。

保育所では、お年寄りに感謝の気持ちをあらわそうと、あとでお年寄りを保育所に招き、おゆうぎ会を予定しているそうです。

役場からのお知らせ

四月からみどり荘は保育所に転用になりますので四月からの集会は研修所を使用するようにして下さい。

漁業協同組合総会開かれる

四十七年予算は
七億五千三百三十八万円

三月五日午前十時から佐井小学校講堂に約三百五十人が出席して第六回佐井村漁業協同組合通常総会が開催されました。若山漁業協同組合長のあいさつ、来賓として県水産業改良普及員、村長の祝辞のあと総会に入りました。昭和四六年決算では、収入が五億八千四百四十六万四千円、支出では、五億八千三百二十六万四千円で、百二十万円の黒字です。販売事業四億四千四百五十五万一千円で全体の七六・〇%をしめています。燃油類等の購買事業が一億二百七十六万三千円で一七・六%、講習会とか海藻の整備指導等に八百七十六万六千円で一・五%、いかつり機利用料、船あげ場乾場利用料等六百八十二万二千円一・二%、その他二千五百五十三万二千円三・七%支出は、漁類の売上原価、製氷利用経費等事業直接費、五億三千六百三十七万六千円で全体の九一・九%、人件費、旅費交通費、業務費の事業管理費三千八百八十一万八千円で六・七%、その他が八百七万で一・四%となっています。信用事業では貯金は四五年末で残高一億五千二百万円、四六年末現

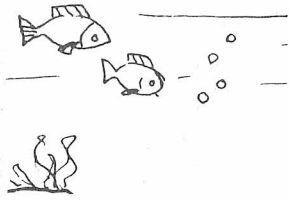
在で二億二千万円、百四五・〇%の伸び率を示しています。貸付の方は、漁業近代化、住宅、資材購入等で九千二百万円を貸付しています。

最近公害や汚せんの問題で沿岸漁民も枯渇状態と言われて来ている今日佐井村は順調に漁獲が伸びて来ています。その第一は大型船の急増と近代的な設備をもって前浜漁場から沖合漁場へと進出し高級魚、漁場の開拓と平行して養殖事業と近年漁民の合言葉となっている「採る漁業から作る漁業」へと科学的知識の修得がこのような飛躍的な漁獲の増大を示した原因かと思えます。又、漁民の熱心な質疑の内容を見ても、いかつり漁業の操業拡大やこんぶ、わかめ等の養殖、更には資源保護確立のため漁法の制限や群をなして廻遊するアブラツノザメの刺網に或はヒラメの刺網漁業等魚種に応じてスピーディーな漁法の改良や改善が漁民一人一人のふだんの研究と共に協力しあつて新漁法を生み出したたまものと思われまふ。これからの漁業も大きく変化しようとしています。

第一は近代的な大型船による沖合漁場の進出、第二は、養増殖漁業の拡大、第三は、船外機による築磯漁業とに分類されているようです。後方施設としては、漁協事業として弁天島に給油施設を設置するそうです。

昭和四十七年予算は七億五千三百八十万円で水揚高が昨年より三十一・一%増の五億五千万円が見込まれています。燃油類、製氷、いかつり機、船あげ場乾場等が二億百三十八万円で、信用事業では三億円の貯金達成を目的とし、貸付では四十六年より二千四百万円増の一億一千六百万円を見込んでいます。

役員補充選出は、長後から内田与一さん、原田から大坂馨さんが選出されました。



季節労協総会開かれる

会長に金谷英彦さん

二月二十日午前九時半からみどり荘に百人の会員が出席して、佐井村季節労務者協議会の総会が開かれ、運動方針、予算、役員改選が行なわれ、午後一時閉会しました。

この日は、前日までの好天とうつて変つてこの冬一番の寒波にみまわれるといったあいにくの天気で、総会成立が心配されましたが、九時半すぎようやく開会、昨年春の選挙後、会長(中村菊次郎)

の脱退で九ヶ月の空白状態が続いていたとあって、役員改選が注目されていました。

経過報告では、協議会から村議に推せん者の落選と組織の弱さを反省し、村長との懇談会等については、出稼相談所の窓口を広めたことと留守宅通信がスムーズに進まなかったことの反省。職業訓練指導では、土木技術者講習会の実施で成果があったこと。その他では郡連合の組織を結成するよう取り組んだことでした。

の出かせき先の訪問と失保受給者の諸問題解決については協議会は勿論、村でも積極的に取り組んでほしいなどの要望が出されました。最後に役員選挙が行なわれ次の人たちが選ばれました。

会長、金谷英彦(大佐井)、副会長、加藤秀夫(原田)、同、宮川智(古佐井)、庶務、宮川勉(大佐井)、会計、北川勝司(古佐井)、委員、長島市郎(大佐井)北田幸雄(大佐井)、東出若男(磯谷)

土木技術者講習会開かれる

講習会開かれる

二月二十七日から二十八日までの二日間、元青森県漁港課長渡辺治助氏を講師にむかえ、土木技術者講習会が研修所で開かれました。この講習会は昨年へ続き二回目です。昨年より多数の受講者を見込んでいましたが今年も四十七人というさびしい講習会でした。それでも少しでも技術を身につけて、これからの仕事に役立てようと講師の話しを熱心に聞いていました。

大間地区交通安全協会佐井支部

結成される!!

三月五日午後一時からみどり荘で百人の会員が出席して大間地区

交通安全協会佐井支部結成式が行なわれました。結成式に先だち運転者向けの映画、改正法規の説明のあと結成式に入りました。事務局からの規約説明、役員は来年選出することにし、今年は大間地区交通安全協会総会で決定した役員におねがいすることにした。役員は次のとおりです。

支部長、片山勝則、副支部長、田中留吉、事務局長、竹本十三武、会計、三戸良一、監事、東出大、菊池伝吉、理事、袴田茂、太田高光、浜野重雄、川畑清一郎、磯川博、長尾敬守、島野芳弘、田中政一、顧問、佐井宮林署長、佐井村交通安全対策協議会会長、佐井村長、細川建設、幹事、佐井派出所長



活動方針では、一、組織の拡大強化、一、学習会の開催、一、各種懇談会の開催、一、教宣活動の強化、一、出かせき共済の加入促進の五項目があげられ、具体的には、村内の出かせき者のうちこの協議会に加入していない人達を加入するよう働きかけること、各種技能講習に参加し、関係法律の学習を行なうこと、出かせき中の諸問題を解決するため関係機関との懇談会を開くこと、留守家族と出かせき者との心のかげ橋の一つとして留守宅通信に力を入れること、不時の事故に備えるため出かせき者共済に加入することなどでした。このほか、村当局または議員によ



農協総会

開かれる

二月二十三日午前十時からみどり荘に五十六人、委任状四十人の組合員が出席して農業協同組合通常総会が開かれ、昭和四十七年予算、昭和四十六年決算が原案どおり可決されました。

式次第に従い高橋農業協同組合長のあいさつ、来賓として下北地方農林事務所長、青森県中央会むつ支所長、村長の祝辞のあと竹本善男さんが議長に選出され議事に入りました。

決算報告では、昭和四十六年の決算は収入六百六十二万七千六百三十一円、支出は六百三十八万九千四百九十四円で差し引き二十三万八千三百三十七円の黒字が生じました。しかし、昭和四十五年の赤字が四十二万六千三百二十八円あったため黒字分で赤字をうめても十八万八千九百九十一円の累積赤字がありこれを昭和四十七年で返済することに決まりました。

昭和四十七年の予算は八百六十三万八千六百四十四円で、収入では村からの補助金が全体の約四十%をしめ、ほかの主なものは購売手数料などです。支出では事業費が全体の五五%、人件費が二八%、その化管理費が一七%です。

防犯連絡所だより

みなさんの町内や部落には必ず、一ヶ所ないし三ヶ所の防犯連絡所と標示した標識が見られると思います。

犯罪のない明るく平和な村づくりには、地域のグループさらに村民一人一人の防犯に取り組む体制をつくる必要があります。

本県の民間防犯組織は、県防犯協会連合会のもとに各警察署単位の地区防犯協会があり、その傘下に町村を単位とした支部組織があり、形式的にはおおむねその防犯体制がととのっているのです。

しかし、組織における活動は必ずしもかんばしくなく、これが原因についていろいろととりざたされ、かつ考えられますが、組織の基盤ともいえるべき末端組織の充実していないところにあると思われまます。

村ぐるみの団結、村ぐるみの防犯体制がととのつていけば犯罪はしめ出され、入りこむ隙はないのであって、そのためには、地域の一人一人が手をとり合って活動するセンターの設けられることがのぞまれるのです。

このような観点から、向う三軒両隣りといった小地域ごとに防犯連絡所(センター)を設け、これを防犯の拠点として町内会、部落

会の人々が力を合わせて、明るく犯罪のない平和な村づくりを前進させるために設けられたのが、この防犯連絡所です。

従って、防犯連絡所とは

① 隣り近所の人達が手をとり合つて、明るく平和な村づくりのセンターです。

② 地域の少年を健全に守ること犯罪や迷惑行為、悪い環境をなくし、ことある場合は警察へ急報することにつとめる。

③ 防犯連絡所は原則として電話の施設があり、その地域の人達の連絡が便利に行なわれる場所を選定し、おおむね三〇世帯に一ヶ所の基準で設けられます。

④ 防犯連絡所には連絡員があり連絡地域住民の信頼のある方、連絡通信の便利な場所から、地区防犯協会長が委嘱することになります。

⑤ 適当な時期を選んで地域の到達と共同で

(イ) 防犯灯を必要とするところはないか。

(ロ) 子どものたまり場となつて

いる悪い環境はないか。

(ハ) 地域内に危険なところはな

いか。

などの調査を行ない、少年非行、水死事故防止、交通事故防止の見

地から力をあわせて悪い環境をなくすることにつとめる。

⑥ つぎのようなことが区内におき、知った場合は速やかに警察へ通報すること。

(イ) 明らかに犯人と思われる者を発見した場合

(ロ) 犯罪や交通事故が起きたことを知った場合

(ハ) 押売りなどが来て人が迷惑している場合

(ニ) 酔っぱらいや行き倒れ人

迷い子、その他救護を必要とする人を発見した場合

(ホ) 少年の不良行為や非行を発見した場合

見した場合

となつていますからみなさんのご協力をおねがいします。

最後に、現在委嘱されている佐井村の防犯連絡員はつぎのとおりです。

大佐井新町地区藤田貞雄、坪谷正隆、浜町宮川忠、仲町宮野栄太郎、浦町樋口忠義(会長)、川向福田欽一、台場松谷勇助、古佐井浜町竹内勇吉(副会長)、川原町中郷貞市、新町石沢多佳樹、谷地町若山正夫、みどり町岩尾勝、大瀬戸田名部武勇、黒岩若山友衛、原田高橋利幸、池田保雄、木部文八、川目川谷繁雄、矢越館脇博二、館脇政太郎、中村竹蔵、磯谷東出昇、横浜定雄、長後内田与一、福浦内藤清美、牛滝坂井文雄、野平茶木平一

『防犯は隣近所の助けあい』
佐井警察官派出所 鳴海部長

**転出証明書は
住所を定めた
日から十四日
以内に!!**

入学、就職、転任のシーズンとなり転出証明書を請求する人が増えていきます。

転出証明書は住所を定めた日から十四日以内に届出しなければなりません届出期間を経過すれば、住民登録法違反で罰せられます。また、届出しないと選挙人名簿にも登録されません。

転出証明書の届出、また交付を受ける人は、印鑑、国民健康保険国民年金へ加入している人は、保険証、年金証書を持参して下さい

献血推進だより

— 移動採血車来村 —

いつも献血に御協力いただきありがとうございます。ことしもまた次の日程で移動採血車が来村します。これから仕事に出かける人、運転する人、職場におられる人々、は健康に留意してこの機会に献血にご協力くださるようお願いいたします。

記

三月二十九日午後一時半から

部落巡回

三月三十日 午前九時から正午

まで役場前

献血手帳をおもちの人は当日持参してください。

思わぬケガをしたり胃潰瘍で突然倒れたりということが自分や友達や親せき、隣近所の方達の間に起こってもお互いが困らないよう平素から準備するということは大事だと思います。佐井村献血推進協議会では去る十六日に会議を開き今迄の成績県下五位を更に四位三位に伸ばし、思わぬ災難にも困らないようお互いに努力しました。来る二十九日、三十日は今迄の百人台が倍の二百人になるように多数研修所前へお越し下さるようお願いいたします。 会長 助役

春の交通安全運動実施される

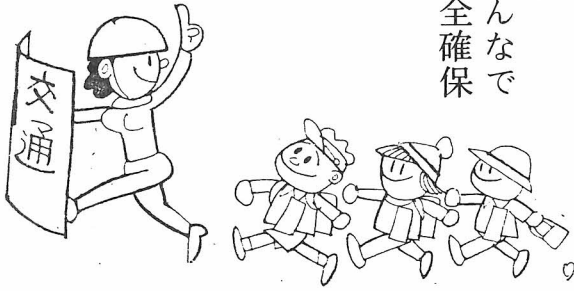
自四月 六日 (十日間) 至四月十五日

四月六日から四月十五日までの十日間春の交通安全運動が実施されます。この運動は新入学児童と幼児の事故防止を中心に展開されます。お母さん方、かわいいお子さんを交通事故から守るために次

のことは必ず守ってください。一、忘れものをさせないように、また少し早めに登校させること二、登校前に叱つたりして、イライラさせないこと。三、持ちものは、できるだけ少なくさせること。

四、あらかじめ安全な道路をえらび、必ずその道を歩かせること五、あらゆる機会を利用して、正しい歩き方を教えること。六、登下校時よりも、帰宅後の外出に特に注意させること。七、「黄色帽子」は、登下校時はもちろん、外へ出る時は、いつも着用させること。

みんなですべて安全確保



新入学(園)児童を交通事故からまもりましよう

!!火を使う人なら できる火の始末!!

春季火災予防運動始まる

自四月 一日 (二十一日間) 至四月二十一日

火災のおこり易い季節となりました。青森県では県民の防火意識の高揚をはかり、火災の防止と火災による人命損傷事故の絶滅を期するため、本運動を実施することになりましたから次の点に留意し火災予防に何分のご協力をお願いいたします。

火災予防

- 一、火気使用器具の正しい使い方と点検
- 二、火気使用場所、灯油等の置場の整理
- 三、火気使用後の点検と確認
- 早期通報と初期消火
- 一、火事になったら郵便局へ電話で「火事」と呼び火元を知らせる。
- 二、消火器の備えつけと正しい使用
- 三、バケツ一杯の水くみ置きを励行

人命の安全確保

一、老人、子供、病人等の就寝場所をはっきりきめておくこと。

二、火災による避難経路、避難器具の準備

三、たばこの投げすてと寝たばこ防止

四、外出時、就寝前の火の元点検

五、旅館や集会所等多数の出入する防火対策(非常口等を明示) 林野等の火入について

畑仕事など、又は、味噌等で火入れをするときは必ず許可をうけて下さい(国有林に接近する田畑等の場合は森林法により営林署の許可が必要です)火入れをする際一週間前に印鑑を持参して役場一番窓口へ

保健婦だより

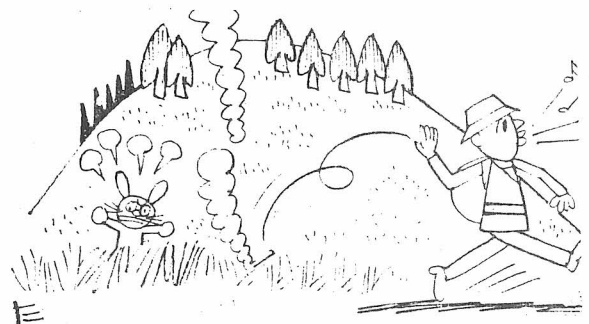
春先の保健衛生

春とはしか

春先にははしかがはやります。おもにくしゃみ、せきなどの飛沫によって伝染します。生後十カ月から一年ぐらゐの間にかけた乳児のはしかは肺炎になりやすいの

で注意が必要です。

はしかははじめかぜに似ていますが、いったん熱がさがりまた再び発熱します。このとき顔に発疹が出て体中にひろがります。「熱が高くて冷やすな」といわれていますが、高熱のときは後頭部だけを水枕で冷やすことは差し支えありません。部屋はせつ氏二十度くらいにして多少湯気をたてます目が赤くなりまぶしがりますから部屋はカーテンなどで薄暗くしましょう。あまり食物を食べたがりませんがジュース、牛乳、番茶、アイスクリームなどの水分を充分に与えます。



目の病気もはやる
 春先はまた目の病気がはやりま
 す。流行性の結膜炎は目が真っ赤
 になり、目やにがひどく、まぶた
 がはれて痛みます。

ウイルスによる結膜炎は、予防
 がむずかしいのですが、石ケンで
 よく手を洗い、外出から帰ったら
 洗面器で目を洗うことを心がけま
 しょう。

結膜炎にかかった人は手先が目
 やにでよごれていますから、電話
 機、ドアの把手などから他人にう
 つさないようにガラス容器に、脱
 脂綿を入れ、消毒用アルコールを
 それにひたし、手先をよくふくよ
 うにして下さい。

就職者の健康メモ

睡眠と栄養

学生時代を終わって、ふるさと
 をはなれ、遠くに就職する人たち
 は、次のようなことに気をつけま
 しょう。

社会人として一步を踏み出した
 人たちは、早寝、早起きを実行し
 ましょう。

朝、ゆつくり食事をして、早めに
 出勤すれば、疲労はずっと軽くて
 すみます。

食事もそこそこに急いで出勤す
 ることは、胃の負担となり、慢性

胃炎や胃かい瘍のもとになりやす
 いのです。

朝食抜きでは、午前中に、血液
 中の糖分がさがり、イライラし疲
 労がはげしくなり事故にもつな
 ぎます。牛乳、半熟卵、チーズ、
 ヨーグルトなど消化もよくスタミ
 ナもつきます。

心の健康

環境が変わるので、精神のスト
 レスも大きくなります。慣れれば
 順応できますから、あまりクヨク
 ヨしないことが大切です。

緊張がつづけば、精神の疲労が
 つみかさなり、食欲や睡眠などの
 疲労回復の働らきがまたげられ
 じわじわと疲れがたまってゆきま
 す。これが限度をこえれば、何か
 のキツカケで身心の病気につなが
 ります。

頭が重い、昼から眠い、食欲が
 ない、胃腸の工合がわるい、イラ
 イラ感がとれない、心臓がドキド
 キして不安な感じにおそわれるな
 ど多様な訴えがなされます。

こんな症状のとき、職場に医師
 カウンセラー、保健婦がいたらす
 ぐ相談しましょう。

心身症を防ぐには、何でも話し
 合える仲間をつくることも必要で
 す。

そして生活のなかにストレス解
 消のレクリエーション活動をと
 り、休日には全身を打ち込むス
 ポーツをしましょう。

現代の職場で働く限り、少々の
 神経や精神の疲労はさけられない
 から、心の健康を守る抵抗力を身
 につけましょう。

季節のメモ

そろそろ暖かくなりかけたなど
 思っていると、また寒さがもどつ
 てきたり、寒さがぶり返すとゆる
 みかかった気持も引きしまります
 子どもたちは現金なものです。

衣

冬ごもりへの季節とちがつて、
 気持もうきうきするような明かる
 い日ざしに、追われるような家事
 にもはげみがでてくるこのごろで
 す。暖かくなると急に、たんぜん
 やはんでんのよごれが目立つてき
 ました。いらなくなつた冬物のあ
 と始末がまた主婦の大仕事にな
 ります。しまいこむには心配な衣料
 の中間手入れを……。暖房器具な
 どは、こんどはしまふ場所のこと
 も考えておきましょう。

オーバーや防寒コートなどの厚
 手のものは、ちよつとよごれは目
 立ちませんが、これから雨季、盛
 夏をそのまま放つておいて次のシ
 ーズンに出して見ると思わぬとこ
 ろに大きなシミが浮きでているも
 のです。必ずクリーニンングに出し
 てからしましましょう。

村政の窓口

- 1月25日 昭和四十七年度予算審
議委員会
- 1月26日 農業委員選挙人名簿審
査
- 2月11日 保育所入所児童審査会
- 2月23日 国保運営協議会
- 2月24日 消費者苦情相談
- 2月25日 無料法律相談
- 2月26日 佐井村防犯連絡所連絡
員会議
- 3月1日 昭和四十七年度佐井村
共同保健計画
- 3月7日 海中公園協議会
- 3月11日 報酬等審議委員会

こよみと行事

- 3月29日 献血(部落巡回)
- 3月30日 献血(役場前)
- 4月1日 春の火災予防運動
- 4月6日 春の交通安全運動

人口と世帯

| | |
|-----|---------|
| 男 | 2,427人 |
| 女 | 2,547人 |
| 計 | 4,974人 |
| 世帯数 | 1,116世帯 |

編集と発行

佐井村役場(総務課)
 印刷所 株式会社 協同印刷

戸籍の窓口

お誕生おめでとう
 三月十二日現在

- 宮川 幸彦(昌) 古佐井
 - 田中 加代(孝一) 福浦
 - 若山 麻理(繁光) 古佐井
 - 田中 千恵子(義一) 福浦
 - 田中 義弘(忠弘) 福浦
 - 田中 留美子(幸太郎) 福浦
 - 東出 智恵子(福一) 磯谷
 - 真鍋 弘美(英夫) 川目
- ご結婚おめでとう
- 樋口 昭男(大佐井)
 - 穂本 和子(青森市)
 - 金丸 真司(新里村)
 - 山路 雅子(古佐井)
 - 阿部 功(八戸市)
 - 木下 ミツ子(古佐井)
 - 金丸 剛(大佐井)
 - 菊池 敏子(松前町)
 - 原田 敏子(紋別市)
 - 松林 時成(古佐井)
 - 早坂 信吉(古佐井)
 - 牧島 千代(阿智村)
 - 大藤 千代(古佐井)
 - 齊藤 キヨ子(片平町)

坂井照幸(牛瀧)

- 山本 光子(十和田町)
 - 根岸 利子(原越)
 - 宮本 いく子(矢野)
 - 奥本 初男(大佐井)
 - 大下 内百合子(十和田市)
 - 松谷 幸男(大佐井)
 - 木川 ハツ子(柴雲寺町)
 - 鹿島 藤子(大佐井)
 - 宮川 藤子(大佐井)
 - 久保 田進子(舞旭町)
 - 岡村 修子(大佐井)
 - 木村 信一(大間町)
 - 佐藤 祥子(原田)
 - 伊藤 藤子(大森町)
 - 松本 祥子(原田)
 - 石山 岩男(藤代町)
 - 田名 部郁子(古佐井)
- ご逝去おくりやみ申します
- 木部 惣太郎(ちる) 原田
 - 田中 清蔵(由市) 牛瀧
 - 島中 中(要太郎) 大佐井
 - 工藤 メン(亀太郎) 古佐井
 - 萬キヨ(東出留五郎) 磯谷
 - 太田 基(祥子) 古佐井